

本ファイルは、受験者の便宜を図るために掲載しています。
出願は、必ず募集要項を取り寄せて行ってください。
(このPDFには、志願票等の必要書類は含まれていません。)

平成27(2015)年度

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

博士課程(後期課程)

(10月入学)

学生募集要項

名古屋大学大学院
国際言語文化研究科

本ファイルは、受験者の便宜を図るために掲載しています。
出願は、必ず募集要項を取り寄せて行ってください。
(このPDFには、志願票等の必要書類は含まれていません。)

※不測の事態が発生した場合の諸連絡

災害や感染症の流行等により、試験日程や選抜内容等に変更が生じた場合は、次のホームページ等により周知しますので、出願前や受験前は特に注意してください。

◇ 名古屋大学大学院国際言語文化研究科ホームページ

URL <http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>

◇ 連絡窓口

文系教務課 国際言語文化研究科 入試担当

TEL 052-789-4881

本ファイルは、受験者の便宜を図るために掲載しています。
出願は、必ず募集要項を取り寄せて行ってください。
(このPDFには、志願票等の必要書類は含まれていません。)

国際言語文化研究科は、「国際言語文化学における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、国際言語文化学における学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者を養成すること」(「名古屋大学大学院国際言語文化研究科規程」第2条)を目的とします。本研究科はこの目的にそって、国際言語文化に関する「基礎理解力」とともに「応用力」と「実践力」などの能力を備えた人材を広く国内外から受入れます。

平成27年度本学大学院国際言語文化研究科〔博士課程(後期課程)〕に入学又は進学を希望する学生を下記の要項により募集する。

1. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 本学大学院若しくは日本の他の大学院で修士の学位又は専門職学位を授与された者、又は平成27年9月30日までに授与される見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、又は平成27年9月30日までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、又は平成27年9月30日までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国に大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、又は平成27年9月30日までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法(昭和51年法律第72号)第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、又は平成27年9月30日までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、上記資格(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、博士論文研究基礎力審査に相当するものに合格した者及び平成27年9月30日までに合格する見込みの者で、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者(平成元年文部省告示第118号)
- (8) 本学大学院において、個別審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、平成27年9月30日までに24歳に達するもの

(注) 出願資格(7)又は(8)の適用を受けようとする者については、出願に先立って、個別の入学資格審査を行うので、あらかじめ本研究科入試担当に照会の上、平成27年5月29日(金)までに所定の申請書類を提出すること。

2. 募 集 人 員

日本語文化専攻 ……………若干名(うち社会人特別選抜若干名)
国際多元文化専攻(メディアプロフェッショナルコース含む) ……………若干名(うち社会人特別選抜若干名)

本ファイルは、受験者の便宜を図るために掲載しています。
 出願は、必ず募集要項を取り寄せて行ってください。
 (このPDFには、志願票等の必要書類は含まれていません。)

3. 願書受付期間

平成27年6月8日(月)から平成27年6月12日(金)まで。

受付時間は、午前9時から午後4時まで(12時から13時は除く)。

郵送する場合は、封筒の表に「大学院博士後期課程入学願書在中」と朱書し、書留郵便で郵送すること。6月12日(金)午後4時までに到着したものに限り受け付ける。

また、願書受付期間に提出された4. 出願書類等に不備がある場合、受理しない。

4. 出願書類等

入学又は進学志願者は、次の書類等を取りそろえて、下記に記す出願書類等を提出先に提出すること。

(進学志願者とは、平成27年9月に本学大学院前期課程を修了する見込みであり、引き続き本研究科後期課程へ進学を志願する者を言う。)

書類提出後における記載事項の加筆・訂正等は一切認めない。

No.	書類名	説明	入学志願者		進学志願者	
			(本学大学院出身者)	(他大学院出身者)	(本研究科から)	(他研究科から)
(1)	入(進)学志願票	本研究科所定の様式に記入すること。	○	○	○	○
(2)	修士の学位若しくは専門職学位を授与された者又は授与される見込みであることの証明書	出身大学、研究科長等が作成したもの。(私製複写による書類は不可。) ただし、中国の大学院にて修士の学位を授与された者は、次ページの注意書きを読み、遺漏の無いよう手続きをすること。	○ (ただし、本研究科修了者は不要)	○		○
(3)	成績証明書		○ (ただし、本研究科修了者は不要)	○		○
(4)	修士の学位試験に提出した論文(2部)	・写で可。要旨も添付すること。 ・修士学位論文を提出しないで課程修了をした者はそれに代わる研究論文等を提出すること。 ・修士論文以外に研究業績があれば、それも併せて2部(写で可)提出すること。 ・提出された論文及び研究業績に係る資料は返却しない。	○	○		○
(5)	博士論文作成計画書	A4版の用紙に、(6,000字程度)、もしくは英語(2,400語程度)日本語で記述すること。ただし、日本語文化専攻のうち、日本語教育方法論講座の志願者は日本語で記述すること。	○	○	○	○
(6)	所属長の承諾書	社会人特別選抜による志願者のみ提出すること。	社会人特別選抜志願者のみ			
(7)	外国語検定試験合格証	国際多元文化専攻の志願者で外国語検定試験に合格した者のみ提出すること。(原本提出後、本研究科でコピーを取り、返却する。)	左の説明に合致する志願者のみ			
(8)	入学検定料 30,000円	ゆうちょ銀行において30,000円の普通為替証書を作成し、記入欄には何も記入しないで提出すること。 ただし、本学大学院研究科博士課程前期課程を平成27年9月に修了し、引き続き博士課程後期課程へ進学する者及び国費外国人留学生は入学検定料は要しない。なお、他大学院から受験する国費外国人留学生は、国費外国人留学生であることの証明書を提出すること。	○	○		
(9)	領収証書・領収証書(控)	本研究科所定の様式により、氏名のみ記入すること。	○	○		
(10)	返信用封筒 2通(受験票送付用、連絡用)	本研究科所定の封筒に出願者本人の受信場所、郵便番号、氏名を明記すること。受験票送付用封筒には362円分の切手を貼付し、連絡用封筒は切手を貼付せず提出すること。もし日本の切手が入手できない場合は、国際返信切手3枚を入手して同封すること。	○	○	○	○

本ファイルは、受験者の便宜を図るために掲載しています。
 出願は、必ず募集要項を取り寄せて行ってください。
 (このPDFには、志願票等の必要書類は含まれていません。)

(11)	宛名シール	本研究科所定の様式に必要事項を記入すること。	○	○	○	○
(12)	住民票の写し	市区町村の窓口で交付を受けること。 なお、日本国に在留する外国人のみ提出を要し、日本国籍を有する者及び日本国永住許可を得ている者は不要とする。日本国外に住む外国人はパスポートの写しを提出すること。	外国人のみ (左の説明を熟読すること。)			

※出願書類等の提出及び問い合わせ先
 〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4-5(700)名古屋大学大学院国際言語文化研究科入試担当
 TEL (052)789-4881 (直通)

※中国の大学院にて修士の学位を授与された者は、以下の注意書きを読み、遺漏の無いよう手続きをすること。

<p>中国の大学院にて修士の学位を授与された者は、以下の1. 及び2. の手続きを行うこと。</p> <p>1. 中国政府直轄の財団である『中国教育部学位与研究生教育发展中心 (CDGDC)』から名古屋大学大学院国際言語文化研究科へ修士学位が授与された証明及び成績証明に関する認証書が直接送付されるよう手続きすること。</p> <p>(1) 国際言語文化研究科の登録コードは「C900805」である。</p> <p>(2) 認証書は必ず「英文」で発行してもらうこと。 (英文以外の認証書は受理しない。)</p> <p>(3) 認証書は、「3. 願書受付期間」に記す期間内に国際言語文化研究科に届くよう手続きをすること。CDGDCから本研究科に直接到着したもののみを受理することとし、出願者本人が受け取り、自身で本学に提出した認証書は原則として無効とする。</p> <p>(4) 手続きの詳細については、CDGDCホームページ (http://www.cdgdc.edu.cn/) で確認すること。</p> <p>2. 出願時にはCDGDCへの依頼書の写しを提出すること。</p> <p>※ この手続き以外の認証書は受理しない。また、本手続きにおいて認証書の提出を行う者は、別途卒業証明書及び成績証明書の提出は要しない。</p>
--

5. 選 抜 方 法 等

① 選抜試験

修士学位論文 (又はこれに代わるもの)、博士学位論文作成計画書及び口述試験により、総合的に判断して選考する。

月 日	内 容	試 験 時 間
7月15日(水)	口述試験 (日本語もしくは英語による。ただし、日本語文化専攻のうち、日本語教育方法論講座については日本語による)	別途文書で指定する。

② 試験場所

名古屋大学文系総合館 (予定。変更があれば別途通知する。)

6. 合 格 発 表

平成27年7月23日 (木) 10:00頃に、文系総合館玄関に掲示発表をする。

また、本研究科ホームページ (<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>) においても、一定期間発表する。

本ファイルは、受験者の便宜を図るために掲載しています。
出願は、必ず募集要項を取り寄せて行ってください。
(このPDFには、志願票等の必要書類は含まれていません。)

なお、郵送により本人にも通知する。

7. 入 学 手 続

手続日は、合格者に対し文書により通知する。

8. 入 学 料 及 び 授 業 料

入 学 料	282,000 円	
授 業 料	前期分 267,900 円	後期分 267,900円
	(年額 535,800 円)	

(注) 入学時及び在学中に学生納入金の改定が行われた場合には、改定時から新たな納入金額が適用される。

9. そ の 他

- (1) 納入した入学検定料は、いかなる理由があっても返還しない。また、領収証書は志願票受理時には発行せず受験票送付時に同封する。
- (2) 試験場へは、試験開始20分前に到着し係員の指示を受けること。
- (3) 名古屋大学においては、構内への車両の入構規制を実施しているので、受験の際は、公的交通機関を利用すること。
- (4) 過去の志願者数、受験者数及び合格者数は、名古屋大学大学院国際言語文化研究科ホームページ (<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>) に記載されている。
- (5) 障がいのある者で、受験上・修学上特別の配慮が必要な者は、平成27年5月29日(金)までに国際言語文化研究科入試担当に問い合わせること。
- (6) 個人情報の取扱いについて
出願にあたって提供された氏名、住所その他個人情報は、入学者選抜、合格発表、入学手続き及び入学後の学務業務における学籍・成績管理を行うために利用する。
取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には使用しない。

本ファイルは、受験者の便宜を図るために掲載しています。
出願は、必ず募集要項を取り寄せて行ってください。
(このPDFには、志願票等の必要書類は含まれていません。)

国際言語文化研究科の概要

国際言語文化研究科は、今日の国際化社会が抱える諸問題に対処するために、日本及び世界の諸地域の言語文化を国際的視野から捉え直し、言語と文化の研究に新領域を開拓するとともに、実践的語学力の育成を重視した教育を行うことにより、来るべき新時代のリーダーたり得る国際人としての高度な専門家の養成をその設置目的とするものである。

日本言語文化専攻は日本文化、日本語教育、日本語学の研鑽を基礎とし、実践的語学力を身につけ、国際的な広い視野、深い洞察力を備えた日本文化学の専門家、指導的な日本語教育者及び日本語学の研究者の養成を目指すものである。

国際多元文化専攻は、既存のアカデミズムを横断する言語文化の諸問題と世界の諸地域に新たに生成しつつある文化に関する研鑽を礎石とし、実践的語学力を身につけ、国際理解と国際協調に貢献しうる高度専門職業人、研究者の養成を目指すものである。

本研究科は、留学生及び在外教育施設で教育を受けて帰国した学生を積極的に受け入れるとともに、昼夜開講制により、企業及び中等教育機関から派遣された者に対するリカレント教育も行う。

なお、博士学位論文の審査に合格した者には、博士（文学又は学術）の学位が授与される。

本ファイルは、受験者の便宜を図るために掲載しています。
 出願は、必ず募集要項を取り寄せて行ってください。
 (このPDFには、志願票等の必要書類は含まれていません。)

講座及びその内容

1. 日本言語文化専攻

講座名	内 容
日本言語文化学	日本言語文化に関わる諸事象を異文化接触の観点から共時的・通時的に分析し、その個別性と普遍性を究明していく方法論を確立するとともに、学際的分野として、現代の国際社会に現実的な意味を持つ日本言語文化学の構築を目指す。
比較日本文化学	日本文化を異文化と比較する視点から捉え、文化・文学批評理論、文化記号論などの方法論を踏まえて、様々な文化現象についての分析・記述を行い、新たな比較日文学の可能性を追究する。
日本語教育学	日本語教育学原論を中心に置き、教育の素材となる日本語そのものを運用及び構造の二側面から追求する。また、さまざまな日本語教授法の背景をなす理論、日本語習得に関わる種々の要因を検討し、理論面、実践面から日本語教育のあり方を追究していく。
応用言語学	言語教育と言語学習に関する実践的理論を言語類型論、対照言語学、語用論、社会言語学、心理言語学、言語習得論、文化理論、(応用)認知言語学、機能主義的言語学、統計学、コーパス言語学、言語接触研究、談話分析・相互行為言語学等の成果を踏まえて追究する。特に、日本語教育の実践に理論的な基礎を与える。
現代日本語学	講義及び演習を通して、現代日本語の音声学・文法論・意味論(認知意味論・形式意味論)・語用論等、日本語学の主要分野の必須項目・研究方法を体系的に習得し、独創的な日本語研究を行うための高度な能力を養うことを目指す。
日本語教育方法論	日本語教育の基礎となる実際の日本語使用場面における談話分析や言語習得研究に基づき、多様な背景をもつ日本語学習者のニーズに応じたコースデザイン、教育方法・評価のあり方を探求する。教育メディアを活用するための基礎知識を学ぶとともにコンピュータ技術を駆使した日本語教育の方法を教材開発及び演習を通じて追究する。

2. 国際多元文化専攻

講座名	内 容
多元文化論	世界の諸地域における多文化社会を、言語文化の視点から、階級・民族・人種・性差などを踏まえつつ多角的に捉え、異文化の共生を理解するための理論的基盤を構築する。
先端文化論	世界の諸地域に新たに生じつつある先端的文化の諸相を言語文化的視点から捉え、新しい社会に対応できる新たな世界認識を確立するとともに、時代と文化形成との連関に関する理論的基盤を構築する。
アメリカ言語文化	北米を中心とする言語文化の諸相を批評的・学際的に分析する。また、英語教育のあり方を科学的・実践的に追究する。
東アジア言語文化	東アジア諸地域における言語文化の諸相を現代社会の中に捉え、中国、韓国、朝鮮、ロシアの言語文化の基層構造を検証し、それに関わる諸問題に対する現実的な文化理論を構築するとともに、実践的な方策を究明する。
ヨーロッパ言語文化	ヨーロッパにおける諸々の社会と文化について、その地域性・歴史性・グローバル化の影響などに注意を払いながら分析するとともに、理論構築を目指す。
ジェンダー論	フェミニズム、ジェンダー、セクシュアリティに関する研究を基盤として、文学、文化、経済、社会心理における事象と表象を批評的・学際的に検証する。それを通じて、社会の既成概念にとられない人材育成と研究成果の社会的還元を目指す。

3. 国際多元文化専攻メディアプロフェッショナルコース

コース名	内 容
メディアプロフェッショナルコース	高度情報化社会の先端で、メディアはいま何に挑み、どう課題を克服しつつあるか。新聞、テレビをはじめ、インターネット、情報技術、広告、広報活動などの現場で奮闘中の多彩な企業人も教授陣に加え、即戦力となる人材を養成するとともに、批判的かつ創造的なメディア・文化研究を目指す。

名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻 指導可能領域

〔日本語文化学講座〕

日欧比較文化論，比較文学・比較文化，文化史，医学史，近現代日本文学，詩，アニメーション，その他文化関連領域

〔比較日本文化学講座〕

比較文学・比較文化，比較児童文学及び文化，在日朝鮮人文学，古代外来文化受容史，日中比較家族史

〔日本語教育学講座〕

日本語教授法，言語教授法一般，第2言語としての日本語習得研究，中間言語語用論，談話分析・会話分析，現代日本語の意味・文法研究，日本語の誤用分析，日本語と他言語の対照研究，日本語の文法教育

〔応用言語学講座〕

現代日本語の統語論（構文論）・意味論・語用論，日本語と韓国語・中国語・東南アジア言語，南アジア言語，ヨーロッパ言語を含む他言語との言語類型論的研究・対照言語学的研究，文法化理論，（応用）認知言語学，機能主義的言語学，心理言語学，社会言語学，日本語の話し言葉・書き言葉についてのコーパス言語学的研究，日本語の言語接触・借用語研究，談話分析・相互行為言語学

〔現代日本語学講座〕

音声学，日本語音声教育，意味論（意味論一般，形式意味論，認知意味論を含む），認知言語学，文法論，日韓対照研究

〔日本語教育方法論講座〕

日本語教育方法論，日本語教育教材論，第二言語運用論，接触会話の研究，コンピュータ支援教育方法論，日本語CALL教材開発

名古屋大学大学院国際言語文化研究科国際多元文化専攻 指導可能領域

〔多元文化論講座〕

文化記号論，コノテーション論，メディア文化論（広告，女性誌），19世紀末ドイツ文化論（芸術誌分析），ドイツ語学，比較文学，比較文化，スペイン語学，ポルトガル語学，日本文化の海外発信

〔先端文化論講座〕

表象文化論，表象文化思想論，思想史，政治理論，イデオロギー論，美学思想，音楽哲学，前衛芸術論，西洋舞踊史，身体文化研究，ドイツ文化社会史，ドイツ語圏文学，世紀転換期の芸術文化，現代アート

〔アメリカ言語文化講座〕

アメリカ文学，アメリカ文化，英語教育，eラーニング，英語教授法，第二言語習得論

〔東アジア言語文化講座〕

言語類型論，アスペクト論，ロシア語学，北西カフカース諸語，中国文学，日中比較文学，中国語学，現代中国語文法，日中対照研究，中国語教育，中国語教授法，朝鮮・韓国語学，朝鮮・韓国語教育，東アジア言語の音声学・音韻論，日本語と朝鮮・韓国語の対照言語学的研究

〔ヨーロッパ言語文化講座〕

イギリス小説，ヴィクトリア朝文学，英国史，イギリス文化史，イギリス社会史，西洋演劇，演劇理論，シェイクスピア，マイノリティ地域・言語・文化，エスニシティ，ナショナリズム，世紀転換期ドイツ語圏の文化・芸術，ロマン派以降のドイツ語圏の文学，村上春樹，トランスレーション・スタディーズ

〔ジェンダー論講座〕

フェミニスト批評・理論，フェミニスト経済学，クィア批評・理論，文学，経済，労働，社会政策・制度，ポピュラーカルチャー，映像・視覚文化，インターネット，オンライン・コミュニケーション論，メディア社会心理学，若者論，アメリカ文学，中国・台湾文学，中国・台湾女性史，台湾映画，中国近現代舞踊史

〔メディアプロフェッショナルコース〕

メディア史，メディア論，放送を通して見る欧米社会論，政治学，国際関係論，政治コミュニケーション論，アジア地域研究，アジアのメディア・コミュニケーション，ソーシャルメディア，インターネット，メディア言説分析，メディア英語，ジャーナリズム，新聞・放送・デジタルメディア・情報通信関連の研究，コミュニケーションの効果研究，メディアアリテラシー，ローカルメディア研究，デジタル・ストーリーテリング

本ファイルは、受験者の便宜を図るために掲載しています。
出願は、必ず募集要項を取り寄せて行ってください。
(このPDFには、志願票等の必要書類は含まれていません。)

志願票記入上の注意

【全ての志願者】

志願票下部の注意をよく読んで記入すること。特に履歴の欄は、高校卒業以後の入学・卒業修了年月、就職・離職年月を1行ずつ記入し、できるだけ空白期間のないようにすること。

【国際多元文化専攻メディアプロフェッショナルコース志願者】

- (1) 一般選抜、社会人特別選抜の欄は、該当する出願資格により○印で囲むこと。
- (2) 国際多元文化専攻欄の「志願専攻及び志願講座名」欄に「メディアプロフェッショナルコース」と記入する。